

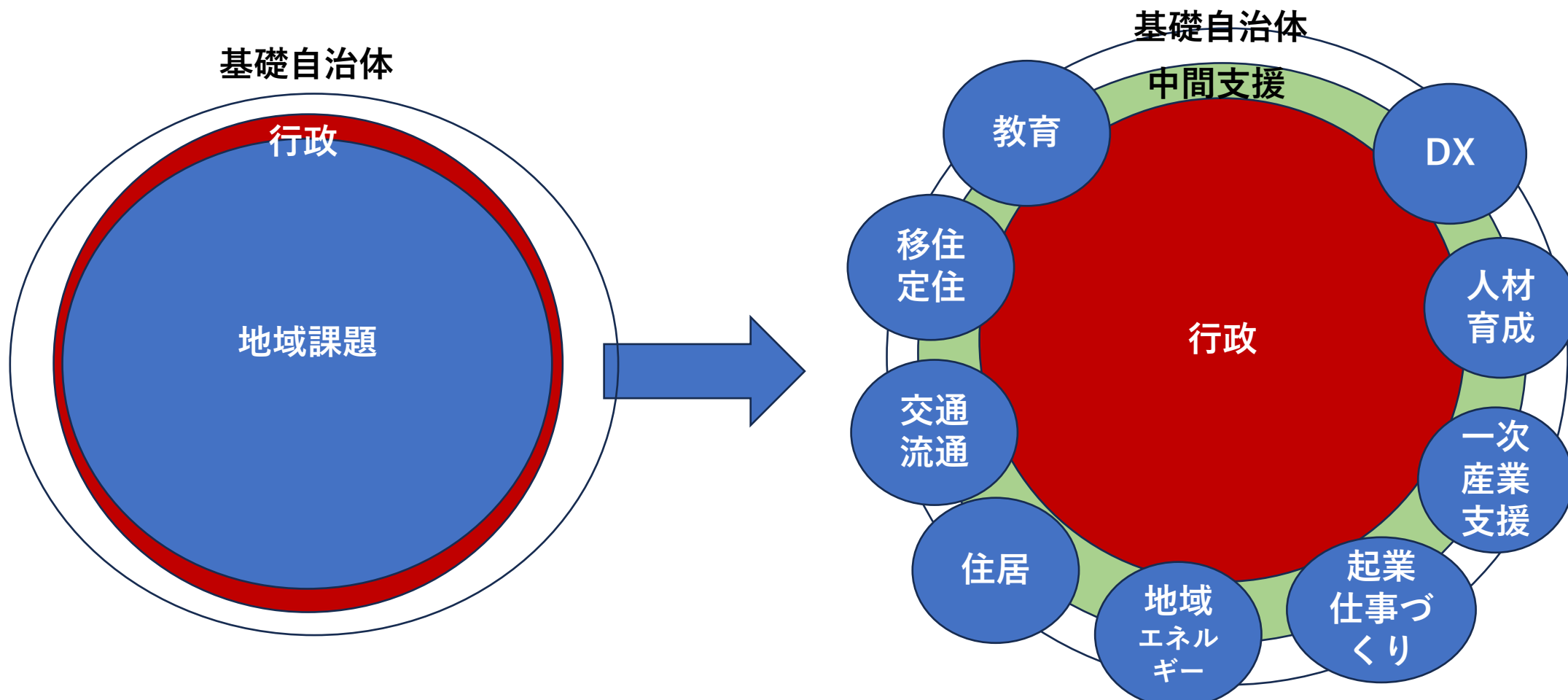
# うらほろ町の 中間支援組織として

2025年9月29日  
一般社団法人十勝うらほろ楽舎

## われわれが考える中間支援組織の役割とは？

社会課題の複雑化により、行政が持つスキルやネットワークだけでは解決できないテーマが積算している。

そんな中、地域課題を「行政と共に歩むパートナー」として、ブリッジしていく役割



町と町外の間をつなぐ中間支援組織は、

- ①単なる「調整役」ではなく、**関係性を創り出すプロデューサー**
- ②一過性で終わらず、**地域に新たな循環をつくるエンジン**
- ③地域と外部の「**価値観やスピードの違いを翻訳**」する存在



## 北村貴



- 1967年 北海道十勝・浦幌町生まれ。  
石油メーカー人事部、人材派遣会社の派遣コーディネイターを経て、マーケティング業界へ。
- 1997年 日本で2番目となるネットマーケティング会社（株）マーケティングジャンクション設立。  
(29歳) 2万人の女性ユーザーを組織し、企業向けの商品開発やネットプロモーションなどを担当。
- 2005年 北海道へUターンしECサイト「北のフードソムリエ」を立上げ、  
(37歳)
- 2007年 (株)グロッシーを設立。料理研究家400人をネットワークし、ビジネス領域を「食と地域」に  
(40歳)
- 2013年 東京と北海道の2地域居住をスタート。  
(45歳) シェアハウスで3年間、20歳年下の仲間70人との生活を経験した。
- 2020年 Dialogue for everyone(株)を設立。  
(52歳) 地方創生×人材育成の「大人のインターンシップ」を核に事業を展開。
- 2022年 一般社団法人十勝うらほろ楽舎に参画、出身地の仕事に本腰を入れる。  
(55歳)

**いくつになっても常に成長を望み、心地よい空間は自ら壊していく主義。  
モットーは「コンフォートゾーンを越える」**

### <受賞歴>

・平成25年度 内閣府男女共同参画女性のチャレンジ支援賞

# 浦幌町とは？



## 浦幌町から見えるKey Word

人口  
約4,100  
人

農林水産業  
全てある

食糧自給率  
約3,000%

50歳  
新町長・  
46歳の  
女性教育長

20代2名  
30代3名の  
若手町議

20-30代  
の  
転入超過

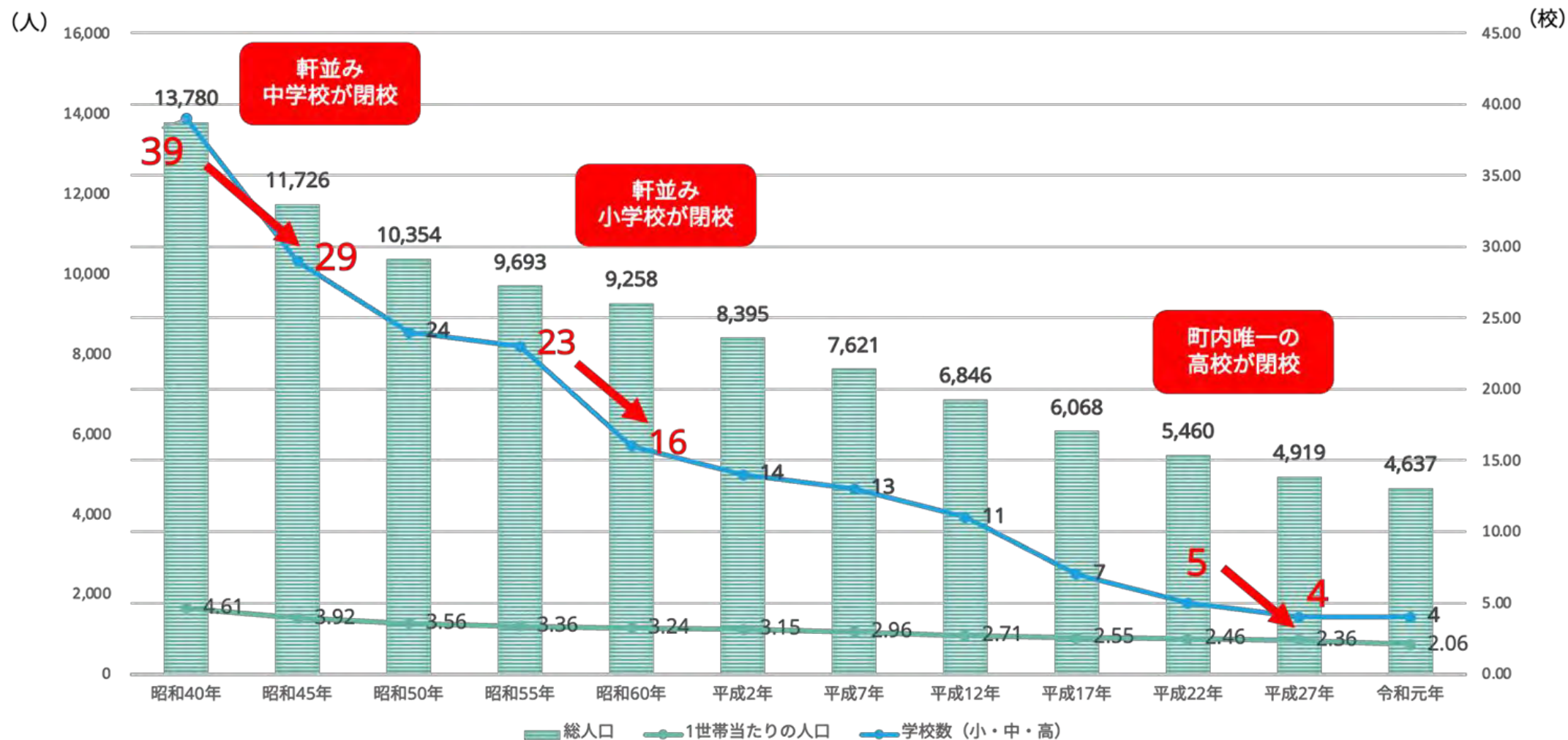
官民学連携  
うらほろ  
スタイル

課題先進  
地域

企業との  
連携

## 浦幌町とは？

50年で人口が半分に減少。平成22年には、まち唯一の高校が廃校



大好きな浦幌高校 心からありがとう



# 官民学が連携して行う うらほろスタイル教育

地域と学校で子どもたちの9年間の学びをつくる取り組み。すでに18年目



飲食店充実／ゆるキャラ刷新／検定料補助

## 中学生浦幌の将来像提言

学びの成果、町長に150項目

【浦幌】浦幌中学校（浦幌町）の3年生が、4月に開催された「浦幌町立中学校3年生の学びの成果発表会」で、町長に150項目の提言を提出した。この日の発表会には、町内外から約100人が参加し、町長は「素晴らしい成果を挙げた。3年生は、7人ずつ4班に分かれ、①暮らしの環境・観光・産業・教育・文化の4分野の提言を提出した。②「町民が誇れる町になる」として、飲食店や美術館、公民館、図書館のさらなる充実を求めた。③サイクリングロードの実現、各

浦幌町長に提言書を手渡す関さん（左）



## 浦幌町の特徴①

- ①過疎が進み、毎年100人ずつ人口が減っているのに、20代の若者が増加！3年続けて、流入超過。
- ②企業や中央官庁を辞めて、転職・移住する人が続々と出現。
- ③スポーツ選手やスポーツでチャレンジしている学生が未来を考えるフィールドとして、浦幌町に協力！



**20代転入超過3年で34人**

**浦幌町「うらスタ」事業も要因**

【浦幌】定例会は13日に一般質問を行い、5氏が登壇。2019～21年の町内の社会動態に関し、20～24歳は転入者が計111人に

対して転出者が計86人、25～29歳は転入者計87人に対して転出者計78人で、3年間で20代の転入者が転出者を34人上回り、水沢一広町



森本稀哲  
北海道日本ハム  
ファイターズなどで活躍



早坂良太  
北海道コンサドーレ札幌  
などで活躍



石川直樹  
北海道コンサドーレ札幌  
などで活躍



兵藤慎剛  
北海道コンサドーレ札幌  
などで活躍



森谷賢太郎  
現役でラガビーでプレー



朝原宣治  
北京オリンピック4×100mリレー  
銀メダリスト



大迫傑  
現役マラソンランナー

## 浦幌町の特徴（行政・議会の変化）

①官民協働・企業との協働を推進する48歳（当時）の新町長が誕生！  
企業版ふるさと納税を活用した地方創生プロジェクトを推進。

②若者が軸となる“まちづくり体制”が全国から注目！  
「26歳女性」・「29歳女性」・「29歳男性」・「31歳女性」の若手4名が町議会議員に当選！  
（若手議員の後援会は高齢者も後押し）

③46歳の女性教育長が誕生。地域の源泉である教育に、新たな視点を加えていく



## 浦幌町の特徴（企業との協働事例）

企業で培った経験や人生観を地域の学生に伝える授業を、学校と連携して展開。  
また、若者たちが働きたいと思える事業を、企業人＋地域住民で創出しています。



- ・ 浦幌の中学校の授業で講義。
- ・ 修学旅行で上京した際に会社見学＆ワークショップを実施。

### 株式会社BATON PLUS



木製品開発（林業×高付加価値）

### フォレストデジタル株式会社



デジタル森林浴（自然×IT）

# URAHORO GAKUSHA



## 次世代につながる地域社会のモデルをつくる

### 【基盤を育む】



### 【資本を育む】



### 【人財を育む】



# 協働により、次世代につながる地域社会のモデルをつくる

域内企業  
事業者

域外企業  
事業者

**シンク&ドゥータンク機能**  
(課題発見、調査・企画立案・調整・実証実施)

役場

地域住民

教育機関

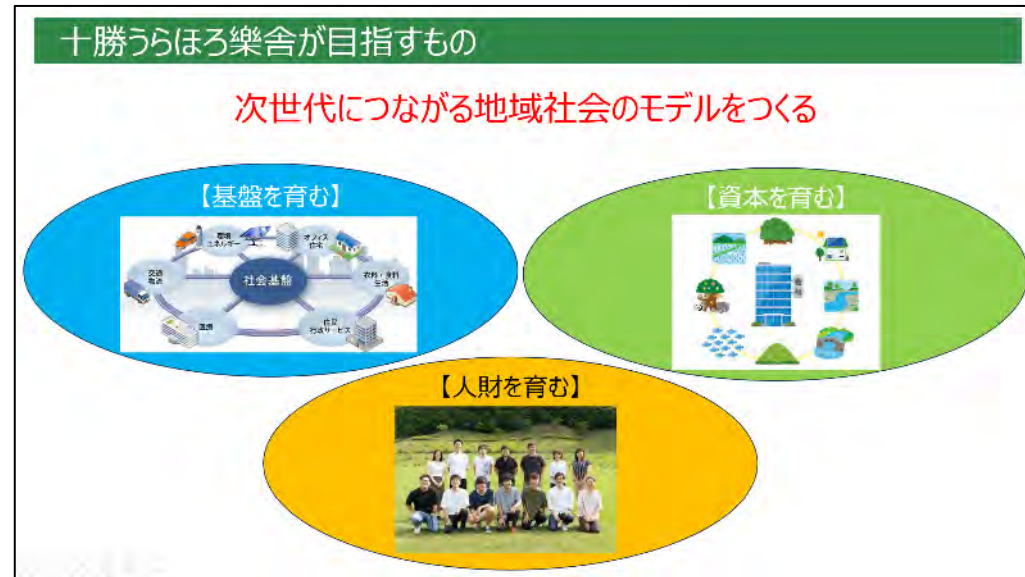
**人財育成機能**  
(うらほろスタイル・挑戦  
機会・メンタリング)

域外学生

**域外連携機能**  
(社会課題解決事業や企  
業との連携・コーディネート)

企業人  
副業・兼業

金融機関  
投資家



# 多彩な人材が最大の資産



## 1.うらほろスタイル

# 小中一貫の教育課程内で行われる「うらほろスタイル教育」

## 小学校

## 中学校

### 低学年

### 中学年

### 高学年

### 1年生

### 2年生

### 3年生

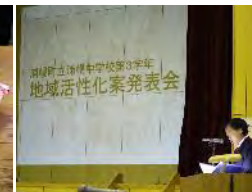
ふるさとを感じ、関心を持つ

浦幌の特色・産業を知る

地域と関わり、魅力を発信

大人の生き方に触れ仕事を体験

地域活性化に参画



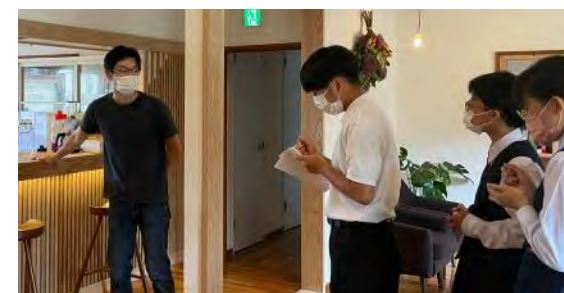
## 具体的な取り組み例①「民泊体験学習」(小5)

- ・ 町内の農林漁業者宅に、1泊2日泊まり込みで生活体験。(1家庭に対し約児童3～4名)
- ・ 作業体験を通じ、産業理解をはかるとともに、初めて会う他者に、ありのままの自分を家族の一員として受け入れられる体験を通して、自らの尊厳を実感する。



## 具体的な取り組み例②「地域活性化への参画」(中3)

- ・ 大好きなふるさと浦幌をよりよい町にするための企画を地域の大人たちへ提案。企画はその後、想いを託された大人が、真剣に向き合い、実現への道を切り拓かれていく。
- ・ 近年では、生徒たちも企画の提案に留まらず、自ら実行に移す活動に。ここでも大人たちは生徒たちの想いに向き合い、生徒が自らの想いを実現できるようサポートする。



親や先生以外で、ありのままの自分を受け入れ、本気で向き合ってくれる大人＝「信じられる他人」との出会いが、自己肯定感・自己有用感、社会への当事者意識・地域への愛着の形成につながる

## うらほろスタイルとは**社会（浦幌）を持続**させるための協働活動

- ・次世代を担う子どもたちが夢と希望を抱き、  
**「この町に生まれ育ってよかった！」**  
**「引き継いでいきたい！」**  
と思える地域を、今を担う大人がつくること。

- ・次世代を担う子どもたちが  
**社会を切り拓き、生き抜く力を身につけること。**  
それを大人が垣根を越えて全力サポートすること。

# うらほろスタイルで次世代の 担い手が育まれてきたスキーム



町に対する想いや活性化案を提案

小中学校が主体となり、  
地域みんなで子どもたちを育む  
「うらスタ教育」

地域の大人が知恵を絞り、  
子どもたちの想いを実現！

子どもの想いを受け止める  
その背中を見せ続ける

地域（未来）への当事者意識

子どもの変化

大人の変化

中高生たちが自らまちづくりに  
参画するサークル「浦幌部」を結成

町に戻りたい若者のために  
新たなキャリアモデルの創造



# 子どもの思い実現 ワークショップ



- 「一人でも多く子どもの思いを叶えたい」という思いで様々な立場や職業の大人が月に一度知恵を絞る
- 当て職などは0の完全有志
- 昨年で、通算110回目を迎える
- 毎年成人式（はたちのつどい）で、現状報告も！

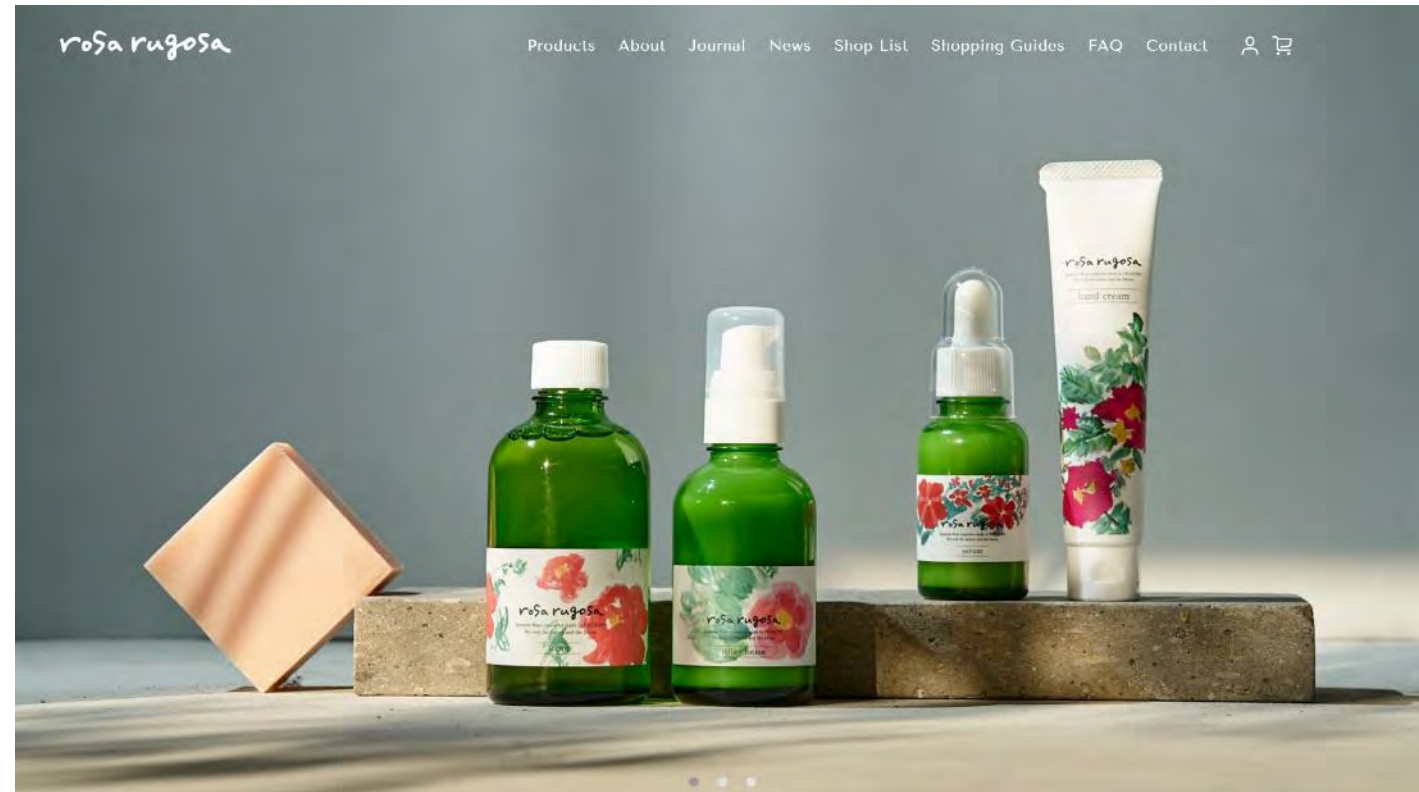
例) 「うらは と ほろま」は町のゆるキャラとしてあちこちに



# 例) 豪華ゲストを招いた「うらほろマラソン」は今年4回目！ (キッズチャレンジでは地域の大人が子どもに1か月間伴走)



# 例) 町花「ハマナスの化粧品」は全国販売 サステナブルアワード受賞



# 中高生が教育課程外で取り組む自主活動「浦幌部」

## 浦幌部（高校生の活動）

・「中学卒業後も地元を拠点に活動したい」という思いから、うらほろスタイル教育を受け育った高校生有志たちによりH28「浦幌部」結成。

・結成当初よりメインで行われていた活動は、町内の一次産品を活用した商品の自作販売。町内のイベントやお祭り、母校の文化祭での出店、近隣大学の大学祭へ出張することも。

・コロナ禍により、イベントやお祭り自体または飲食出店が相次いで中止になってからは、YouTubeを中心としたSNSを活用し、浦幌町や浦幌部の活動について、発信する活動に。



触  
発

## 中学生版浦幌部

・「浦幌部」で活動する高校生たちの背中を見ていた中学生たちから「自分たちも『浦幌部』の活動に参加したい」と声上がり、R2に6名で活動を開始。

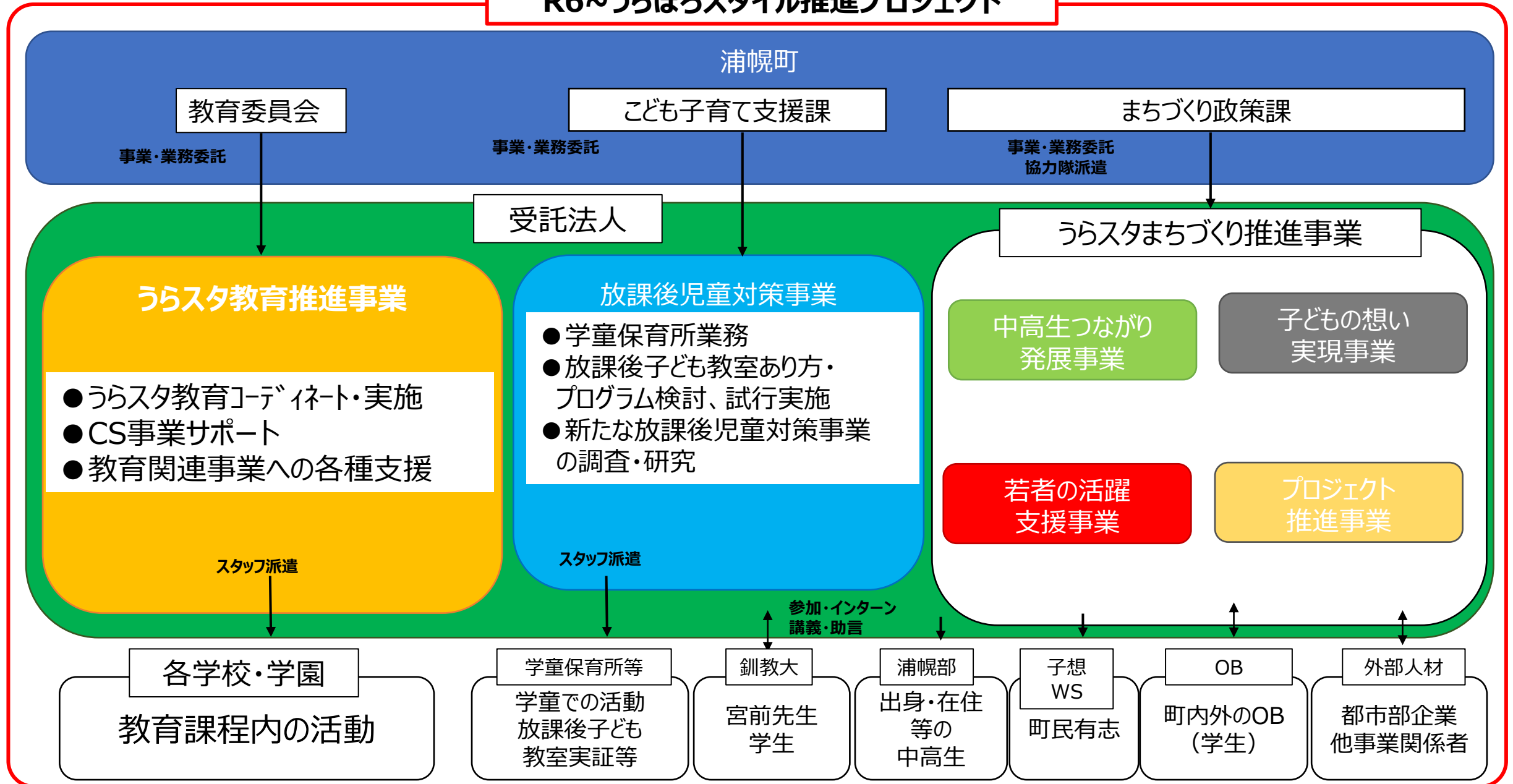
・コロナ禍の中スタートした最初の活動は、浦幌の自然を紹介する絵本の作成。メンバーの特技を活かし、苦手を補い合いながら、情報収集・調査活動や、ストーリー・絵コンテづくりを重ね、約2年かけて完成。

・現在は部員数、プロジェクト数とも徐々に増加。中3生は、教育課程内で取り組む「地域活性化の活動」とリンクさせ、横断的にプロジェクトを進める部員（生徒）も増えてきた。



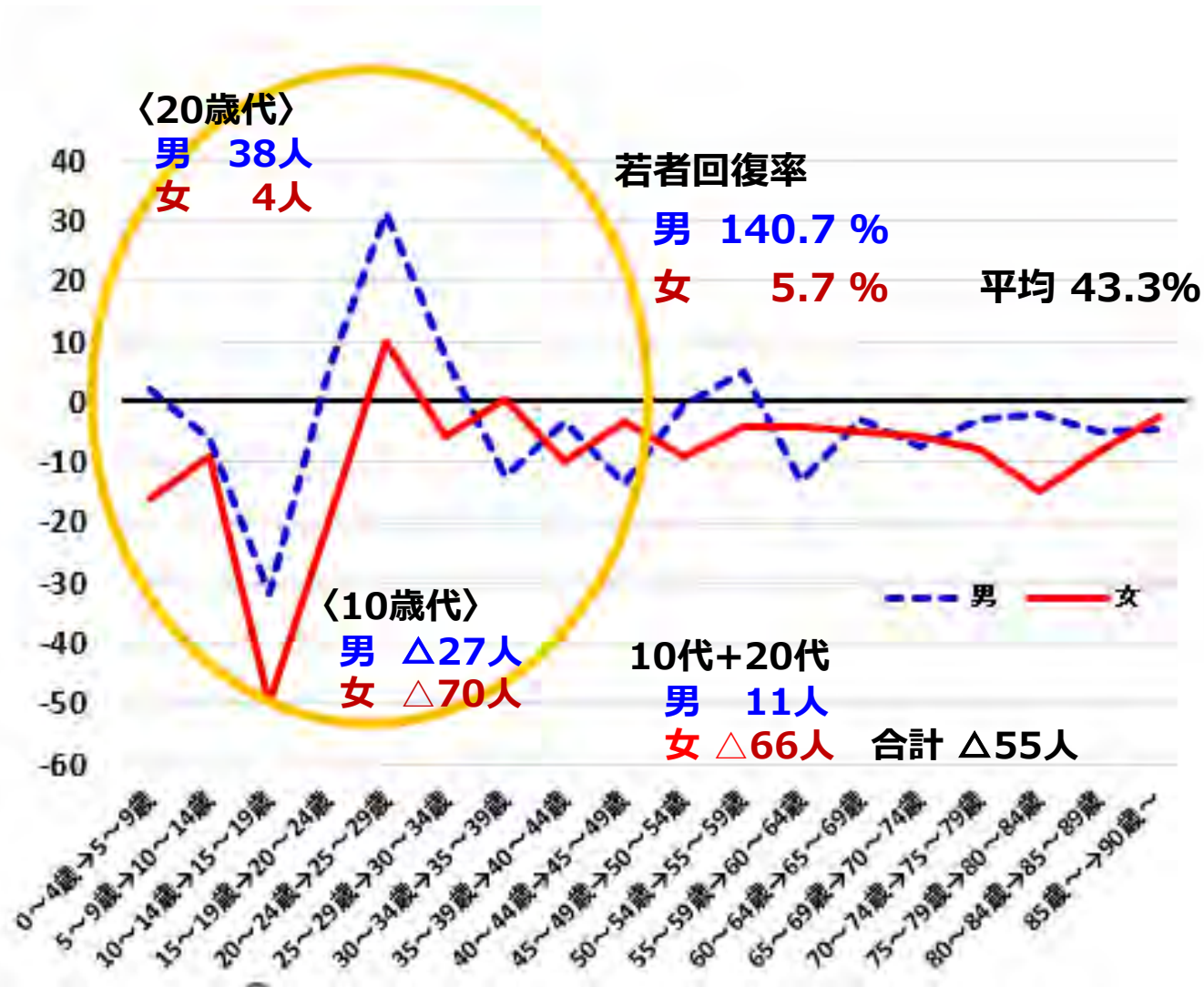
# うらほろスタイル推進事業の活動分担及び組織図 (第4期 R6～)

## R6～うらほろスタイル推進プロジェクト



## 2. ジェンダーギャップ解消の町づくり

# 浦幌町 年齢性別・純移動率 (2015→2020年)



若い女性に圧倒的に  
選ばれていない

↓  
やりたい仕事がない

↓  
一緒に働きたい人がいる町づくり  
(ロールモデルの可視化)

# 人口減少下の町づくり～女性と若者に選ばれるまちづくり勉強会ご案内

**目的：**ご自身の町や会社などに体験と知識を持ち帰り、地域や企業戦略づくりに活かす

## 第1回 「ジェンダーバイアス」ってなんだろう？ 基本の「き」

日時：10月3日（金）14時00分～16時00分

講師：みらいRITA財団 高橋聖子氏



## 第2回 「防災とジェンダー～被災地での経験を、地域防災戦略へ」

日時：11月14日（金）14時00分～16時30分

講師：特定非営利活動法人ウィメンズアイ 代表理事 石本めぐみ  
前RQ被災地女性支援センター（RQW）副代表



## 第3回 「浦幌町の男女共同参画アンケートから、ジェンダーギャップ解消の町づくり」

日時：12月19日（金）14時00分～16時30分

講師：一般社団法人十勝うらほろ楽舎 北村貴、みらいRITA財団 高橋聖子

**会場：**とかちプラザ

**参加費：**無料

**対象：**行政職員（男女共同参画 防災 町づくり担当他） 市町村議会議員

### 3.リジェネラティブ農業の推進

# 十勝地域課題の構造分析

安定供給で日本の食卓を守る十勝大規模農業であるが、下記の課題に直面している。

- 人口減少に伴う **農業従事者の減少**
- 資材の輸入価格高騰による **収益の圧迫**
- **土壌の劣化**に伴う水捌けの悪さや病害
- 気候変動による営農環境の変化



- 農業経営の **持続可能性に黄色信号**が灯っている
- 省力化等による規模拡大は生産継続の助けとなる一方で **地域コミュニティ崩壊**のリスクもある

上記課題の解決手段として、  
リジェネラティブ農業（大地再生農業）  
の推進が重要である。

風による畑からの砂埃



土壌の劣化による水はけの悪さ



肥料原料の高騰化



肥料原料の輸入通関価格は、令和3年以降、上昇傾向にある中で、尿素は令和4年4月に、りん酸アンモニウムは令和4年7月に、塩化加里は令和4年10月に過去最高値となるなど価格上昇が見られた。その後、国際的な需要の落ち着き等を背景として、令和5（2023）年1月以降は下落基調に転じているものの、今後も為替相場の影響等で高値が続くことが予想される。

※参考：財務省「貿易統計」をもとにした農林水産省作成データ

# リジェネラティブ農業とは？

リジェネラティブ農業（大地再生農業）  
「土壌を修復し、自然環境を回復する農業」

## 特徴

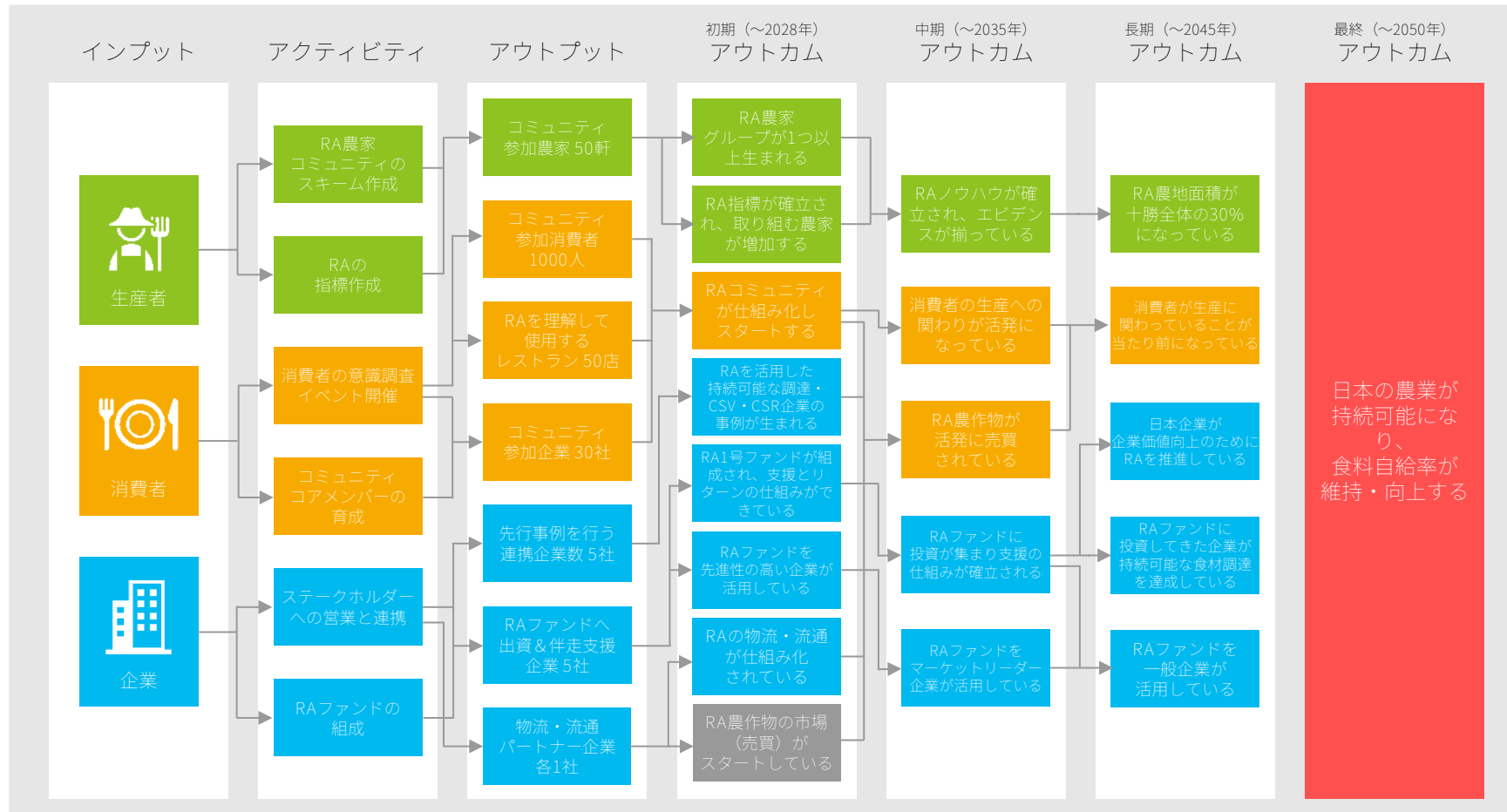
- ・ 不耕起栽培…農地を耕さずに作物を栽培する
- ・ 被覆作物の活用…作物を栽培していない期間に、農地を覆うように作物を植える
- ・ 輪作…同じ農地に一定期間をあけて異なる作物を交互に栽培する
- ・ 化学肥料や農薬の不使用（または最低限に抑える）



## 効果

- ・ 土壌の炭素含有量を増やして肥沃にし、保水性を高めることで干ばつへの耐性を高め、農作物の品質を保つ。
- ・ 害虫に強い土壌になることで、必要な肥料の量が減る。
- ・ 二酸化炭素を土中に吸収することで気候変動を抑える効果も期待される。

# インパクト戦略（農業の持続可能化を目指し、RAを進めていくためのロジックモデル）



## インパクトKPI

- ・温室効果ガスの排出量（北海道2050年）：実質0
- ・RA農家農地面積の割合（十勝2045年）：30%
- ・化学肥料使用率：30%減
- ・化学農薬：50%減